

<全体分析>

試験時間

105 分

解答形式

記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問 I からIVの本文の語数は、昨年は1,998words、今年は2,255 words で257 words 増加した。

出題の特徴と昨年との変更点

読解総合2題、その他(対話文)1題、英作文1題の構成は昨年と同じ。

その他トピックス

- ・昨年復活した和文英訳問題が大問 I で引き続き出題されたが、大問IIIでは出題がなかった。
- ・大問IIIの2は下線部の発言をしたときの話者の気持ちを表す名詞を選択する問題。昨年の下線部の発言の仕方を表す副詞を選択する問題と同様の趣旨である。
- ・自由英作文の制限語数は、大問IIIが15~20 words から25~35 words に、大問IVが40~50 words 1題から30~50 words 2題になった。大問IVは、昨年在イラストとグラフの関係を読み取った結果と理由を述べる問題だったのに対して、今年は2つのグラフから読み取った内容を述べるものになった。

<大問分析>

| 番号 | 区分 | 出題分野・テーマ | コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど) | 難易度 |
|----|------|---|---|-----|
| I | 読解総合 | 「水泳教育の歴史」 (本文:617 words) (設問:150 words) | ほとんどの人間が水辺で暮らし、生き延びるのに水泳が必要な技能であった古代から、時代を経て水泳の意味合いがどのように変わってきたのかについて論じた英文で、語数は昨年の699語から82語減った。設問数は昨年から1問減って6問であった。1.では昨年度大問IIで出題されていた語句整序問題(10語)が出題されたが、昨年度と比べて解きやすいものであった。2.の下線部和訳では、asの訳出とobserveの意味、原級比較がポイントであった。3.の下線部和訳では、“this”の具体的な内容を文脈に即して表すことが求められた。4.の説明問題では下線部の直後の内容をまとめる必要があるが、字数制限が厳しく端的にまとめるのに苦労したと思われる。5.では昨年同様、和文英訳が出題された。6.では文補充の問題が出題され、6問中5問は段落のトピックセンテンスを入れるものであったが、一部判断しづらいものもあった。 1. 語句整序 2. 下線部和訳 3. 下線部和訳 (thisを明示) | 標準 |

| 番号 | 区分 | 出題分野・テーマ | コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど) | 難易度 |
|-----|-----------|---|--|-----|
| II | 読解総合 | 「イルカの出す音と互いの識別」 (本文: 787words) (設問: 77 words) | <p>4. 内容説明 (25 字以内)</p> <p>5. 和文英訳</p> <p>6. 適文補充 (6ヶ所 選択肢 8 個)</p> <p>《 出典 》 Hayes, Bill. <i>Sweat: A History of Exercise</i>. Kindle Edition. Bloomsbury, 2022. (大学発表)</p> <p>イルカが出す音について書かれた英文で、本文はやや分量が増加した。1.は字数制限内にまとめることが難しかったと思われる。3. は選択肢の一部にやや難しい語があった。4.は下線部に含まれる John Smith が何を表しているのかを理解することが難しかったと考えられる。</p> <p>1. 下線部内容説明 (30 字以内)</p> <p>2. 空所補充 (7ヶ所, 選択肢 9 個)</p> <p>3. 空所補充 (6ヶ所, 選択肢 8 個)</p> <p>4. 下線部内容説明 (30 字以内)</p> <p>5. 下線部和訳</p> <p>6. 適文補充 (1ヶ所, 選択肢 5 個)</p> <p>《 出典 》 Barker, Holly. “How Do Dolphins Choose Their Name?” <i>Discover Magazine</i>, 6 July 2022. (大学発表)</p> | 標準 |
| III | その他 (対話文) | 「食と環境問題についての会話」 (本文: 657 words) (設問: 315 words) | <p>日本の大学に留学している 3 人の大学生が、昼食の列で待つ間、肉食が環境に与える影響などについて話し合っている対話文に、同意文選択問題などが施されている。選択問題が中心だが、5. は「環境への負荷を軽減する具体的な事例」について 25～35 words の英語で説明する問題になっている。また、2. では下線を施された発話がどのような気持ちでなされたかを英語の名詞で選択する問題が出題された。昨年度は同様の問題が副詞を選択する形式で出題されたが、語彙的にはやや取り組みやすくなった。</p> <p>1. 同意文選択問題</p> <p>2. 下線部について感情を表す適切な名詞を選ぶ問題 (5ヶ所)</p> <p>3. 対話文の内容として正しいものを選ぶ問題 (選択肢 8 個から 2つ選択)</p> <p>4. 空所補充問題 (8ヶ所)</p> <p>5. 「環境への負荷を軽減する具体的な事例」について 25～35 words の英語で説明する問題</p> | 標準 |

| 番号 | 区分 | 出題分野・テーマ | コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど) | 難易度 |
|----|-----|---|--|-----|
| IV | 英作文 | 「20年間にわたる 献血者数の変化と 献血量の変化」 (本文: 194 words) | Question 1: Figure A を見て, 2000 年から 2019 年の 20 年間にわたる, 若い世代と年配の世代の献血者数, およびその合計を表す 3 つのグラフの傾向を 30~50 words の英語で書く問題。 Question 2: Figure B を見て, 上記と同じ 20 年間の献血量の変化を表すグラフの傾向を述べた上で, Figure A と関連づけながら, 各献血者の献血量の変化を 30~50 words の英文で説明する問題。 いずれの問題も, それぞれのグラフが示す傾向がわかりやすいので, 制限語数に収めることに留意すれば, それほど難しい問題ではない。 制限語数は, 昨年が 40~50 words であったが, 今年は 2 問合計で 60~100 words に増えた。 なお, 表やグラフに基づいた自由英作文は, 今年で 6 年連続の出題となった。 | 標準 |

注: 区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 読解総合問題では, 論旨展開の把握を問う問題の出題が続いている。このような問題に対処するためには, 論旨展開や文章の構成に留意して読み進める練習が必要である。また内容説明問題に関しては, 必要な情報を制限字数内でまとめる力を養成する必要がある。演習には北海道大, 東北大, 筑波大, 大阪大などの長文問題が利用できる。
2. 和文英訳対策としては, 基本例文を確実に書けるようにすることが大切である。読解総合問題の中で和文英訳を課す問題の演習には, 東工大の問題が利用できる。
3. 対話文読解で出題される自由英作文対策としては, 東北大の問題が利用できる。
4. IVの図表の説明を含む自由英作文では, 英文を書く前に「図表の中のどのような情報を取りあげ, どのように全体を構成するのか」をしっかりと考える必要がある。類題としては, 広島大が 15 年以上にわたって図表の読み取りに関する自由英作文を出しているのので, 参考にするとよい。